



日本語がわからず、 情報が入手できない

避難時の支援

- 日本語での情報が十分理解できない場合があるため、「やさしい日本語」を使ってわかりやすい表現で危険を伝え、誘導しましょう。(例)避難 → 逃げる



授乳やおむつ替え、 泣き声など周囲に気がつかう

- 大人が動揺すると子どもにも伝わるがあるので、できるだけ普段どおり接するよう心がけましょう。
- 複数の乳幼児を抱えている人の避難を支援しましょう。



認知症の症状がある方

- 動揺している気持ちを落ち着かせ、ゆっくりとわかりやすく説明しましょう。

避難所での支援

- 話すときは、身振り手振りを交えて、コミュニケーションをとりましょう。
- 大切な情報は「やさしい日本語」やイラストを使って張り紙などで知らせましょう。

- プライバシーが守られた場所で授乳ができるよう配慮をしましょう。
- 赤ちゃんのいる方が励まし合えるスペースを確保しましょう。

- 落ち着ける環境をつくりましょう。
- 顔なじみの方が近くにいと安心されます。

防 災 対 策 は 地 域 ぐ る み で !

災害発生時は、自分の身は自分で守る「自助」とともに、地域で互いに助け合う「共助」が重要です。1995年(平成7年)に発生した阪神・淡路大震災では、多くの方が家族や近所の住民等によって救出され、「共助」の重要性が再認識されました。日頃から近所や地域であいさつや声かけなどを行い顔見知りの関係を築くことや、身近な「要配慮者」の存在を知ることが、災害時の地域での助け合いにつながります。

地域の皆さんへ

しが防災プラスワン

様々な人の立場や視点で防災を考えるきっかけとして、「知っというカード」と「どっちにするカード」の2種類の啓発カードを県のホームページで公開しています。家族や地域の人との話し合いの際に、ぜひご活用ください。

詳しくはこちら



しがマイ・タイムライン

一人ひとりに合った避難の準備から避難完了までの行動計画のことをマイ・タイムラインと言います。滋賀県で起こりやすい災害や住んでいる地域の特徴を知り、家族や友達など身近な人と話し合いながらマイ・タイムラインを作って自分や家族の命を風水害から守りましょう。

詳しくはこちら



要配慮者とその身近な方へ

個別避難計画

自分だけでは避難することが難しい方を対象に、一人ひとりの状況に合わせてケアマネージャーや相談支援専門員をはじめとする専門職や、地域の方とともに、各市町で「個別避難計画」の作成が進められています。

福祉避難所

一般の避難生活が困難な要配慮者のために、必要に応じて「福祉避難所」や、指定された要配慮者とその家族のみが直接避難できる「指定福祉避難所」が開設されます。詳しくは、各市町のホームページなどでご確認ください。